

前穂通信

発行日 2014年10月1日
 発行元 自立センター前穂
 〒569-1022 高槻市日吉台
 1番町21-18
 072-689-8600

富士に見られて

登山隊長 杉本 增生

富士は雲の中、と思つたら、ずつと上のほうに、ちよこんと頂りが仰がれる。

「あしたは、鳳凰山の頂上から、あの富士山を眺めるんですよ」と喜んでるうちに、列車がカーブして、頂はまた雲隠れです。富士駅から身延線を経由して、山梨県の韮崎駅で下車、そこからタクシーで小一時間、青木鉱泉の一軒宿に到着しました。

門前の石畳を、大きな蟻蛙がのつそりと這っている。ここはもう、樹々の緑に深々と覆われた山の中。われらへ前穂登山隊、入浴と夕食を済ませ、星空に明日の天気を含みながら床に就きました。ここにばかりの缶詰や缶ビールを期待に反して、翌朝は曇り空。樹林の中の尾根道を登るにつれ、霧が湧きだし、周囲の山々は皆雲に隠されてしまいました。

延々七時間、荷物を背に登り着いたのは、標高三三八〇メートルの鳳凰小屋。今夜のねぐらです。時刻は三時過ぎ。ここから空身で鳳凰三山の一峰、地蔵岳(標高二七五五m)に登頂するのが、本者の行動計画です。山頂往復には二時間あまりを要する。それでも、夕食までの時間をゆっくりくつろぐ余裕はある。

「隊長、提案があります。ふ上がつて小便をはじめた。杉本隊長の登山靴にしぶきがかかる。」

最後尾で登り着いた小太りの松原隊員が、大きなため息をついて

「この天気だと、地蔵岳に登っても、なあんにも見えませんよ。富士山を眺めるのは明日にして、今日はここまでにしませんか。日帰りガイドだったら、もう、もう充分に一日の活動時間をこなしている。」

「ふううう」とまた長いため息。最年長の杉本隊長は、即座に同意。

スタッフ中一番若く元気な柴田隊員は、一呼吸おいて、快く了解。寛太さん、欽太さん、健太さん、ここでゆっくり、おやつにしようよ」

松原隊員の勧めに、ゲストさんたち三人の顔が輝く。受付をすませ、小屋前広場の中、われらへ前穂登山隊、入浴と夕食を済ませ、星空に明日の天気を含みながら床に就きました。ここにばかりの缶詰や缶ビールを期待に反して、翌朝は曇り空。樹林の中の尾根道を登るにつれ、霧が湧きだし、周囲の山々は皆雲に隠されてしまいました。

「苦勞して登ったあと、山の風に吹かれて飲むビールは最高ですと、俄然元気が戻ってきた様子。愉快でにぎやかな時間が、仲間六人のあいだを流れていきます。三連休明けの鳳凰小屋に、宿泊(二七五五m)に登頂するのが、本者の行動計画です。山頂往復には二時間あまりを要する。それでも、夕食までの時間をゆっくりくつろぐ余裕はある。

「そう見えますか...それは嬉しいなア」

「おじさんが、一番、楽しそう...」

「くすり、と娘さん。」

「そうですか...うん、そうかなア...」

「自立センター前穂」代表の松原隊員が、スプーンの手を休めて自問自答です。

「町での目まぐるしい仕事から離れて、山にくだるでしょう。大きな自然にゆったり包まれて、ほくたちスタツフだって楽しいじゃない山好きには、わくわくするんですよ。そのほくたちの心はずみかゲストさんたちにも伝わって、みんな楽しくなる。そうして、ふだんの生活の繰り返しとはちがった、新鮮な驚きや喜びにふれる。これが、町の活動とは一味ちがう登山プログラムならではの味わいかなア...」

「そうなんですのオ...皆さん、いいグループですね」

娘さんからにっこり笑いかけられると、先ほどの立小便も忘れられた様子で、顔中の筋肉が、ふにやあとゆるみつばなしてました。

夜が明けると、昨夕からの雨が降り続いてる。小雨になったとはいえ、鳳凰三山縦走はやめて、登ってきた道を引き返すことにしました。

「おいえ、ちつとも。わたし、学生のとときに、福祉の施設で二か月間実習したことがあるんで...皆さん、のびのびなさって」

「そう見えますか...それは嬉しいなア」

「おじさんが、一番、楽しそう...」

「くすり、と娘さん。」

「そうですか...うん、そうかなア...」

「自立センター前穂」代表の松原隊員が、スプーンの手を休めて自問自答です。

「町での目まぐるしい仕事から離れて、山にくだるでしょう。大きな自然にゆったり包まれて、ほくたちスタツフだって楽しいじゃない山好きには、わくわくするんですよ。そのほくたちの心はずみかゲストさんたちにも伝わって、みんな楽しくなる。そうして、ふだんの生活の繰り返しとはちがった、新鮮な驚きや喜びにふれる。これが、町の活動とは一味ちがう登山プログラムならではの味わいかなア...」

「そうなんですのオ...皆さん、いいグループですね」

娘さんからにっこり笑いかけられると、先ほどの立小便も忘れられた様子で、顔中の筋肉が、ふにやあとゆるみつばなしてました。

夜が明けると、昨夕からの雨が降り続いてる。小雨になったとはいえ、鳳凰三山縦走はやめて、登ってきた道を引き返すことにしました。

「おいえ、ちつとも。わたし、学生のとときに、福祉の施設で二か月間実習したことがあるんで...皆さん、のびのびなさって」

昨日のおんぼろ小屋とは大違いの果樹園の丘に建つお城のような大洋館です。午後四時、雨は上がり、青空が広がっている。

まずは山の汗を流そうと、階上の大浴場へ。露天風呂からは、真正面にペンキ絵でない、堂々たる本物の富士山。山の中では出会えなかった富士山に裸で対面でき、感激ひとしおです。

夕食は、豪華なレストランで、甲州ワイン付きフランス料理のフルコース。昨年の登山プログラム最終日(シエラリーソートホテル白馬)で経験済のせいも、ゲストさん皆、粛々と、ナイフ、フォークを操って優雅にいただく。昨晚のへたくそなインド風カレーライスのおかげで、おいしさはまた格別。登山前はお腹が不調だった健太さんも、綺麗に平らげています。

翌朝は快晴、丘の上からの眺望は申し分がない。

前山を従え、悠然と聳え立つ富士山

「自立センター前穂」の活動はすべて、大いなる何ものかに見られていて...富士山を仰いでいると、そんな自戒めいた感慨が湧いてくる。

その富士に見送られ、われらへ前穂登山隊、帰路に着きました。

付記「ゲストさんの名前は仮名です。」

